

短
歌
の
部

第二十五回 城崎短歌コンクール
第二十一回 城崎俳句コンクール

なかにしけんじ
選者プロフィール 中西健治 先生



1948年、兵庫県生まれ。
元立命館大学文学部教授。平安朝文学専攻。文学博士。「ポトナム」代表。現代歌人協会会員。「京都短歌」朝日新聞 選者。著書に『浜松中納言物語の研究』（大学堂書店）、『弄璞集本文と索引』（和泉書院）、『枕冊子全注釈五』（角川書店）、『平安末期物語攷』（勉誠社）、『雅文遠望』（龜鳴屋）、『源氏物語忍草の研究』（和泉書院）、『源氏物語のなごり』（新典社）、歌集に『茶屋峠』（ポトナム社）など多数。

選者講評

コロナ禍という長く暗いトンネルに世の中全体が縦横に支配されていた期間、人々の感性も委縮するかのよう
思われました。城崎の街もその煽りを食うことになり、陰鬱な空気に覆われていたかのようでしたが、コロナ禍を
乗り越えた今、ようやく元の活気を取り戻したばかりか、以前にもまして気力が増してきているように思えます。
今般、募りに応じて短歌、俳句をお寄せ下さった皆様の作品からも、我が街、城崎への深い親しみが読み取れ、愉
快な時間を過ごせたことでした。城崎短歌コンクールは今年で二十五回目、俳句は二十一回目を迎えることができ、
いよいよ充実してきました。このような素晴らしい企画を継続してこられた城崎観光協会の皆様に敬意を表したい
と思います。この冊子を手に入れた方、城崎温泉に足を運ばれた方。ちよつと立ち止まって一首、一句をひねって
みませんか。お待ちしております。

最優秀賞

秋の日に文庫携たすきえ城崎にてページ繰りつつ聖地巡礼

埼玉県富士見市 渡辺 広子

城崎は文学作品に多く描かれている。この歌の作者はそれを実感したいと思いつつ、街中をゆったりと散策した。折から秋の風が頬にやさしく、文庫本の字面が眼前の光景として立ち上がってくる。いにしえ人が信仰心を胸に霊場を経巡ったように、あたかも「聖地巡礼」のような思いで旅を続け感慨に満たされたという一首。さわやかな気持になる歌だ。

優秀賞

大谿おおたにの水面に浮かぶ三日月を星と見紛う螢の光

神奈川県横浜市 岡崎 貴樹

水面に浮かび上がる三日月と明滅する螢の光。天空にあるはずの満天の星も水面に光り、闇を背に広がる周辺の風光を捉えている。夜、宿を出て街中をゆったりと流れる大谿川を散策しながら眺めると、川面に螢が飛び交っている。そのきらめきの美とあまりの多さに胸を衝かれ、三日月も多くの星の一つかと思紛うような光の束に圧倒された。

湯の町へ近道スマホが教えしか狭き路地裏カート引く音

兵庫県豊岡市 山田 まゆみ

片手にカート、片手にスマホ、という旅行者の姿はよく見かける。スマホに示される近道はかならずしも一般道ではなく、より簡便な近道を示すこともある。スマホ頼みの旅人がどうやら路地裏に入り込んだらしく、カートの車輪の音がかしましく聞こえる。見慣れた光景としてほほえましく包み込もうとしている姿がある。

ゆうやけの雪の光に導かれ外湯めぐりは心の癒し

兵庫県尼崎市 野見山 良 丈

黄昏時、楽しみにしていた外湯めぐりをしようと宿を出た。軒先に残る雪に夕焼けの光が淡く射しこんでいるのを見て、愉快な思いはいっそう高まった。あたりはきりりと寒いはずなのに、なぜか温かい思いが勝って寒くない。いろいろな外湯を存分に楽しむことこそが「心の癒し」になるのだ。温泉とはそういうものなのだ。

城崎の風に吹かれて下駄の音鳴らせば聞こゆる昭和の音も

広島県尾道市 石井 由起子

温泉街を散策するのに宿の下駄をはく。普段は使用しなくなった下駄の甲高い音は、旅情を掻き立てるに十分で、その音色にさまざまな思いが纏わっていることもある。「昭和の音」とは何だろう。読む人の心に「音」を探らせ、記憶をよみがえらせる。記憶の底を覗き込んで、遠いところから自然に湧いてくるのは「昭和」の懐かしい音。

慣れぬ下駄ペからペからと弾ませて夢にのぼせてゆく二人旅

京都府京都市 橋爪志保

「二人旅」はどんな仲かは想像以外にないが、互いに夢を抱いていることは確か。湯上りでほてった二人の体の脚先には慣れない下駄がある。「ペからペから」の表現から軽く弾んで緩慢な歩行の様子を思わせ滑稽な気分にもなる。なおも夢の途中を漂泊しているようで、これからもなお楽しみを探しそうな二人ではある。

入 選

城崎は湯の里わかば山ざくら浴衣に下駄の足音あおと軽やか

大阪府大阪市

渡 辺 俊 文

寝たきりの祖母の笑顔が蘇る閉じた瞼に城崎の町

京都府福知山市

山 口 秀 樹

それなりに浴衣着こなす人々の異国語飛び交う城崎温泉

埼玉県本庄市

白 藤 巳 玲

かわらけを放る指先その先に雪解け近し光る城崎

兵庫県川西市

雁 瀬 紗 希 子

長湯治祖父母来たりし城崎は千朶せんだ万朶ばんだに今賑わえり

大阪府大阪市

村 橋 照 善

亡き父母を産み育みし但馬路に妻その母を迎ふ嬉しさ

奈良県大和郡山市

水野 隆 司

菖蒲咲く城崎めぐり父娘^{おやこ}旅母への想い道連れに

大阪府四条畷市

今井 優 子

すれちがう入試に向う学生にエール送りつ我蟹食べに

京都府京都市

坂西 友 子

下駄を履き通りの小石を跳飛ばし神の浸かった熱へと沈む

大阪府堺市

南村 友 杜

欄干の誰かがつくった雪うさぎ春待つ姿刹那かな

神奈川県川崎市

中澤 朱 花

柳揺れ下駄の音響く夜の街幸せ運ぶコウノトリかな

大阪府守口市

志波 まゆり

電車来ず登ってみた山冬の朝木々の朝露雪と見紛う

千葉県八代市

池田悦子

梅雨曇り城崎ロマン闊歩する宿に帰りて晚酌に舞う

京都府京都市

佐々江隆大

我先に城崎めぐし七湯巡りを帰路は大和路古刹を巡る

東京都足立区

佐藤春夫

ファインダー覗くも野暮と思わせし城崎桜の絢爛たるや

兵庫県神戸市

広間洋斗

文豪の足跡たどって城崎へいつしか心は大正ロマン

埼玉県富士見市

渡辺友理

春夕の水面に映える紅色はひたる足先君の横顔

京都府京都市

吉村京花

雪の頬が苺に染まる柳湯如月の夜の珈琲牛乳

大阪市吹田市 三原佑樹

湯浴びして柳通りを歩むれば道行く人皆立つ湯けむり

奈良県生駒市 高峰裕樹

啓蟄^{けいちっ}の城崎湯けむり我が春も立ち昇らるる卒業旅行

静岡県浜松市 芦澤鋼汰

青春の最後の思い出城崎へ幼馴染と十八の春

兵庫県加古川市 島谷月音

御所の湯の壁に描かれし女たち何を秘かに話しているか

兵庫県豊岡市 千葉裕

旅人の心に寄り添うコウノトリ我が身の上を優雅に過ぎゆく

京都府京都市 大和田拓海

城崎に嬉しきものは人の良さ魚も蟹も七湯廻りて

大阪府高槻市

大庭 勲

城崎のなかを流るるせせらぎの色をとりどり枝垂れ柳か

京都府京都市

地 引 翔 輝

幾世にも絶えず賑わう城崎の外湯湯煙昔も今も

兵庫県豊岡市

畑 中 照 久

病室の窓から見える雲の下父母と歩きし城崎想う

兵庫県朝来市

田 畑 洋 子

麦わらの帽子を風が撫でてゆく少女のやうな母の笑む顔

兵庫県明石市

小 田 虎 賢

春風を連れ城崎の海に立つ我を抱き込むよような波音

兵庫県明石市

小 田 龍 聖

ようこそと柳が揺れるサワサワと旅人癒す城崎の街

大阪府大阪市

甘利 麻紀子

半月の命短し夕螢大谿川の求愛の灯よ

福井県あわら市

笹岡 一彦

稲刈りも終えて湯治に城崎へ帰りし父は日焼けの笑顔

兵庫県美方郡

西村 美也子

時を止め湯気も固まる岩風呂に吾も岩と化す天下一の湯

兵庫県美方郡

西村 徹

麦を編み廻る旅の思い出は人の優しさ城崎^{まち}への想い

兵庫県姫路市

佐藤 淳成

少しずつ記憶が薄れ行く父と車窓より見るコウノトリかな

岐阜県岐阜市

田中 恭司

大谿の川筋行けば見えて来る橋の袂に蛍いっぱい

兵庫県姫路市

中島

保

職を退きひらがなになる老夫婦城崎の湯に「ごくらく」「ごくらく」

兵庫県川西市

木内

美由紀

丹州より鶴三十余羽舞い来たる空も稲田も相似し稲美野へ

兵庫県加古川市

小谷

さよ子

玄武洞今もなつかし渡し舟岸边に立ちて過ぎし日たどる

兵庫県姫路市

尻無浜

一美

欲張って城崎温泉全めぐりうすむらさきのゆでなすびかな

岡山県瀬戸内市

那須

美穂子

一の湯を出でて川辺に君を待つ襟足撫づる芽柳の風

兵庫県朝来市

高橋

久美枝

街歩き山に登りて湯を巡りひねもすのたり友と語らう

大阪府寝屋川市

居原田 博子

君と行く但馬の国の城崎の湯けむりの中流れ星見ゆ

山梨県甲府市

佐野 一彦

城崎のこころたずねて湯めぐりは浴衣に懐く枯れ葉を葉に

兵庫県尼崎市

荒川 としみ

湯舟にてやさしい言葉をかけてくれ朝風呂約し各々宿へ

大阪府羽曳野市

赤澤 皆

立ち代わり立ち代わり来る浴人を迎える御所の冬紅葉かな

兵庫県尼崎市

大沼遊 山

我が胸に凶器あることつゆ知らずよく眠る君さとの湯で守る

京都府京都市

松尾 珠希

退職の夫と歩きし木屋町に「ご苦労様」と下駄音重ね

兵庫県豊岡市

今井 登美子

柳湯は天が高く湯が深く湧き出る湯水はマグマのやう

京都府亀岡市

小林 香南佳

御膳用の「キノサキ」すだれかぶせいき母のもてなす料理おぼえず

兵庫県朝来市

谷 藤 眞佐恵

いで湯・カニ・短歌を詠みて夢なかの桃源郷の城崎温泉

兵庫県西宮市

澤 瀉 和子

城崎の旅はなつかし思い出を妻の墓前にひとりつぶやく

埼玉県飯能市

請 関 邦 俊

松葉がに解禁となり初競りの一千万円にどよめきの声

兵庫県美方郡

國 谷 由喜子

授業にて原稿用紙に写したる「城崎にて」に導かれし旅

大阪府大阪市

木元豊子

娘からプレゼントさる夫婦旅城崎温泉乗り換え三回

静岡県沼津市

中村恵津子

外湯七湯注連新しく調ひぬ新しき年心新し

兵庫県豊岡市

藤田幸美

朝まだき来日の山へ弾む足湯の香きのさき雲海に立つ

兵庫県豊岡市

森田洋

夜歩く傘うつ雨の三連符春の湯の里下駄音高し

埼玉県さいたま市

大野康一

たっぷりとつぼみは膨らみ時を待つ大谿川の河畔の桜

熊本県熊本市

前田妙子

街並みの中にとけこむ日常の湯けむり越しの人の営み

大阪府大阪市

春日律奈

おばあちゃん寝たらアカンとせかす孫七湯巡る喜び辛さ

兵庫県川西市

佐保田 明子

様々な言葉弾けるまんだら湯るつぼの中に放り込まれて

岡山県美作市

山本里枝

初雪で売り子の頬に紅が差し温泉客をふらり誘う

京都府京都市

井関 一海

いざゆこう生命感じに城崎へ意気込む背中に春の雨迫る

大阪府大阪市

岡本結凪

独り言大きな声でつぶやいた聞こえるのかな俺の魂

滋賀県高島市

林 良明

高一に国語で励んだ「城の崎にて」三年越しにこの地に降りる

京都府京都市

谷村優瑠

春前に浴衣姿で汗をかく火照った躰にアイスクリーム

滋賀県大津市

大槻哲也

楽しもう外湯めぐりそのたびに体ぬくぬく心ぽかぽか

大阪府大阪市

山本浩平

雪と磯交じる香りの温泉街カニに惹かれてマグロを食べる

京都府京都市

池田周作

めいっばい熱を体にとじこめてごくりひと瓶しみわたる味

長野県大町市

青島友

自粛解け娘家族を誘い出し城崎七湯絆深めし

兵庫県川西市

佐保田全弘

猫崎の鳥影淡く白砂に一人黙して釣糸傾ぐ

大阪府吹田市 市場 さと枝

月照らし二人鳴らした下駄の音一つになりて心にもあり

石川県金沢市 杉浦 亮 顕

遊びつつ地球を学ぶジオパーク恩恵感じる城崎温泉

兵庫県神戸市 竹中 響 子

城崎の真中流るる大谿川ネオン映して渴れる事なく

兵庫県朝来市 竹村 雅 子

ハネムーン家族団体一人旅変らぬ湯けむり我と城崎

奈良県奈良市 甲斐田 八 重

雨の日に城崎に来た大晦日明日の空にはいい虹かかる

大阪府大阪市 三宅 葵

目を閉じて浮かぶ夕日は今日じゃなく家族旅行の城崎の茜

大阪府羽曳野市

新居とも

鴻の湯にざぶんと入りまっかつかしかいにほんやり気持ち良くなる

三重県津市

原 理花子

かかり湯をザブリと肩に浴びせるやドサリとひびく屋根の落雪

京都府京都市

小坂 純一郎

鵲のわたせる橋か大谿川の灯りのもとに二人たたずむ

滋賀県湖南市

俵山 友里

颯風つれ晴れも雨も見し城崎の木の香る湯にとぷんと浸かる

滋賀県草津市

上田 麻以

城崎のライトの下で語りあうこれまでのことこれからのこと

兵庫県姫路市

宗 實 杏寿加

食べ歩きどこのお店も繁盛だ外湯めぐりは「ゆめば」がお得

和歌山県和歌山市

木本有紀

お湯とカニあともう少しと欲張って真っ赤に染まる城崎の空

茨城県水戸市

西野侑里

六年ぶり七湯の場所や地図かわり夫婦の思い出笑顔の娘

兵庫県神戸市

木下かすみ

もう少し行ってみようと思ってしまうほどだされてるとわかっているのに

徳島県徳島市

高山良政

叶わぬと知りつつ夫と約束す快気祝いは城崎の蟹

山口県周南市

野村貞江

何時きても丹波訛が通用する極楽温泉城崎温泉

京都府南丹市

小畑弘

城崎の夜風に当たり夜散歩太鼓橋から鴨に挨拶

愛知県安城市

伊藤涼帆

地蔵湯は湯けむりの中ほっこりと裸の付き合い温みほのほの

兵庫県朝来市

前田吉幸

立ち並ぶ一日限りの屋台の燈消えて静かにふるさとの夜は

兵庫県朝来市

田畑和廣

志賀も見しヒラヒラと舞う桑の葉を思い出留む栞と為さむ

大阪府箕面市

秋吉和紀

飲泉し顔をしかめた初孫と我の目尻の同じ形よ

埼玉県白岡市

竹内芳

第二十五回城崎短歌コンクール
第二十一回城崎俳句コンクール

城崎百のうた

二〇二四年六月九日発行

編集 中西 健治（元立命館大学文学部教授）
発行 城崎温泉観光協会

〒六六九一六一〇一 兵庫県豊岡市城崎町湯島七八

TEL 〇七九六一三二一三六六三

FAX 〇七九六一三二一三〇〇五

E-mail info@kinosaki-spa.gr.jp

URL <https://www.kinosaki-spa.gr.jp/>

第二十六回

城崎短歌コンクール

第二十二回

城崎俳句コンクール

題材／城崎温泉や但馬地域を詠んだ作品

(例) 城崎・温泉・浴衣・下駄・月・桜・柳・紅葉・雪・酒・蟹・コウノトリ・麦わら細工

選者／中西健治先生(歌人・元立命館大学文学部教授・文学博士)
募／令和七年三月三十一日(月)必着 短歌(二首まで)、俳句(二句まで)。

応募用紙に記入して歌のポストへ投函していただくか、左記応募先へ郵送してください。

表 彰／短歌・俳句とも最優秀賞・優秀賞・佳作・入選。

入 選 表／令和七年六月上旬 入賞者には入賞のご連絡の送付をもって発表にかえさせていただきます。

入賞作品の著作権並びにこれから発生するすべての権利は城崎温泉観光協会に帰属するものとします。

主 表 彰 式／令和七年六月下旬 予定 会場／未定

主催／城崎温泉観光協会

応募・問い合わせ先／〒六六九・六一〇一 兵庫県豊岡市城崎町湯島三五七の一 城崎文芸館 TEL〇七九六・三三二・二五七五

※都合により変更になる場合がございます。詳細が決まり次第、城崎温泉観光協会ホームページにてお知らせいたします。

城崎温泉観光協会ホームページ <https://www.kinosaki-spa.gr.jp/>

題材／城崎温泉や但馬地域を詠んだ作品(短歌俳句各2作まで) ※新旧かなづかいは自由。楷書で漢字にはフリガナをつける。

短歌俳句	短歌俳句	郵便番号／〒	住所／
フリガナ	フリガナ	氏名／	フリガナ
職業または学校名・学年／	年齢	歳	電話番号／
宿泊旅館名	()	()	()